冬期テキスト

必修編

国語

中学 3 年

第7講座 古典(1) ― 古文の読解

学習日　月　日

確認問題

●○● 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。〈群馬改〉

人とまじはらんには、何程親しく心やすき間なりとも、①
接するような時には　気安い

見舞の時、かりそめにもぶあいさつの顔あるまじ。しかれ
人が訪問した時　わずかばかりでも無愛想の顔をしてはならない

ども、なべて人、内用の時、客来あれば、ぶあいさつの顔
一般に　家の用事がある時

つきをし、また常には、「*だうしめされい」、「かうしめさ
丁寧に

れい」などいふ友達をも、いんぎんにことばをつかひ、相
5

手を迷惑さする人多し。②これ法外の事なり。ぶあいさつの
とんでもないことである

面つきして、人にうとまれむ□は、内用を有様にいひて、
嫌われる

客人を帰したるが、はるばるましならん。

〈「仮名草子集」より〉

（注）「だうしめされい」「かうしめされい」＝親しい人との会話で用いられた言葉。「どうしたんだい」「こうしたらどうだい」の意。

問1 現代語訳 ――線①「間なりとも」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 時間があるから　イ 間柄であっても
ウ 間柄であるから　エ 時間であっても　□

問2 内容理解 ――線②「これ」が指す内容を、次のようにまとめました。□に当てはまる言葉を、古文中から二字で抜き出しなさい。

・家の用事があるときに、来客があれば無愛想な顔をし、またやって来たのが親しい□であっても、丁寧な言葉を使って戸惑わせてしまうこと。　□

問3 助詞の補充 □に当てはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア より　イ から
ウ まで　エ にて　□

問4 主題 この文章で筆者が述べている内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 用事のあるときに来客があっても、その来客が親しい人の場合には用事を後回しにして対応したほうがよい。
イ 用事のあるときに来客があっても、用事を後回しにして、普段以上に丁寧な言葉遣いで対応したほうがよい。
ウ 用事のあるときに来客があっても、機嫌よく迎え入れ、ぜひゆっくりしていってほしいと伝えたほうがよい。
エ 用事のあるときに来客があっても、不機嫌な顔をせずに、理由をはっきり言って帰ってもらったほうがよい。　□

要点のまとめ

■ 古文の読解

1 主語や助詞などの省略に注意する。
・古文では、主語や助詞が省略されることが多いため、文脈を確認し、補いながら読み進める。
例 今は昔、竹取の翁といふもの（主語）ありけり。（竹取の翁は）野山にまじりて竹を取りつつ、……

2 会話文をつかむ。
・まず会話文の終わりにつく「と」「とて」などに注目して最後をつかみ、「……いはく」「……申すやう」などに注目して最初をつかむ。

3 指示語・修飾語に注意する。
・現代文と同様に、指示語が指す内容、修飾語と被修飾語の関係を把握しながら読む。

4 文章の内容をつかむ。
・どのような出来事、どのような人物について書かれているか。
・筆者がいいたいことは何か。
・どのような教訓があるか。
・話のおもしろさはどこにあるか。

SAMPLE

基本問題

1　次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

〈島根改〉

*もろこし人の語りしに、ある人ともだちかたらひて、山のふもとを通りしに、この山に虎ありて、人を食らふ。この虎をころしたるものあらば、十万*貫をたまふべしと、*高札たちたるを見て、おほひによろこび、うでまくりなどし、①そのままかけあがらんとするを、かたへの人ひきとどめ、いのちは惜しからずやといへば、たからだにもちたらば、いのちは何か惜しからむとこたへしとかたりき。②おろかなる人のこころざし、まことにおかしきことなり。

〈「たはれ草」より〉

（注）もろこし人＝中国の人。　貫＝銭貨を数える単位。　高札＝立て札。

問1　内容理解　――線①「そのままかけあがらんとする」とありますが、「ある人」がこのようにしたのはなぜですか。簡潔に書きなさい。

問2　主題　――線②「おろかなる人の……おかしきことなり。」とありますが、どのような点を指して「おろか」だといっているのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　大金を手に入れる機会があったことに気づかず、みすみすそれを逃してしまう点。

イ　身勝手で欲深く、大金を手に入れるためには、他人のいのちを平気で奪おうとする点。

ウ　立て札の情報が本当に正しいのか確かめることをせず、うのみにしてだまされてしまう点。

エ　いのちを大切にすることよりも、大金を手に入れることのほうに価値をおいている点。

2　次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

ある所に女房あまた居て、*箏ひくに、*琴柱のはしりて失せたるを、さるべき男もなければ、①*とのゐびと宿直人の見ゆるをよびて、「かの*前栽の中に、楓の木、二またに、これほど、しかしか切りて来」とこまかに教へてやりつ。

「*はかばかしきことあらじ」といふほどに、②切りて、もて来にけり。簾のもとによりて、「このかり琴柱、参らせ候はむ」といひ出でたるに、思はずに*あさましくて、「こまごまと教へつる、いかに*をこがましく思ひつらむ」と③恥ぢあへりけり。

〈「十訓抄」より〉

（注）箏＝中国伝来の琴。　琴柱＝琴の胴の上に立てて、絃の音階を調節するもの。
宿直人＝貴人の邸宅で、夜に警護をする人。　前栽＝庭の草や木。
はかばかしきことあらじ＝たいしたことはできないだろう。
あさましくて＝びっくりして。　をこがましく＝馬鹿馬鹿しいと。

問1　内容理解　――線①「宿直人の見ゆるをよびて」とありますが、女房たちは何をさせるために宿直の人を呼び寄せたのですか。簡潔に書きなさい。

問2　主語　――線②「いひ出でたる」とありますが、その主語に当たる人物を表す言葉を、古文中から三字で抜き出しなさい。

問3　内容理解　――線③「恥ぢあへりけり」とありますが、女房たちが恥ずかしく思った理由として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　なくしたと思った琴柱を宿直の人が自分たちのすぐ近くで見つけたから。

イ　宿直の人をあなどって、琴柱について詳しく説明してしまったから。

ウ　琴柱をなくすような箏の弾き方は、とても下品であると気づいたから。

エ　身分が低い者に対しても、丁寧な心配りをしたと褒められたから。

SAMPLE

演習問題

1 **次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。**

『徒然草』の作者は次のように述べている。〈宮城改〉

> *手のわろき人の、①*はばからず*文書きちらすはよし。見ぐるしとて、人に書かするは②うるさし。
>
> 〈「徒然草」第三十五段より〉

しかし、実際には、『枕草子』に記されているように、藤原信経のような人もいたようだ。

> （藤原信経は）*真名も仮名もあしう書くを、人のわらひなどすれば、隠してなんある。
>
> 〈「枕草子」第百三段より〉

（注）手＝字。はばからず＝遠慮せず。文＝手紙。真名＝漢字。

問1 **古語の意味** ――線①「わろき」と似た意味で用いられている言葉を、『枕草子』の古文中から抜き出しなさい。（　　）

問2 **古語の意味** ――線②「うるさし」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　細かい心遣いで、大したものだ。
イ　わざとらしくて、嫌味だ。
ウ　手紙の作法として、優れている。
エ　煩わしくて、嫌だ。　□

問3 **内容理解** 『枕草子』の古文中の藤原信経に、もし、『徒然草』の作者が助言するとしたら、どのように言うと想像できますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　字が下手であれば、仮名だけで書いたほうがよい。
イ　下手な字は人に笑われるので、隠したほうがよい。
ウ　読みやすいほうがよいので、人に書いてもらったほうがよい。
エ　たとえ下手でも隠さずに、勇気をもって書いたほうがよい。　□

2 **次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。**

> 男も*する①日記といふものを、女もしてみむとてするなり。それの年の②しはすの二十日あまり一日の日の*戌の時に門出す。③そのよし、いささかにものに書きつく。
>
> 〈「土佐日記」より〉

（注）する＝するという。戌の時＝午後八時頃。

問1 **仮名遣い** ――線①「日記といふものを」の中から歴史的仮名遣いを含む文節を抜き出し、現代仮名遣いに直しなさい。（　　）

問2 **古典常識** ――線②「しはす」について、(1)漢字に直して書きなさい。(2)その意味を簡潔に書きなさい。

(1)（　　）　(2)（　　）

問3 **内容理解** ――線③「そのよし」について、「よし」は「いきさつ・事情」という意味ですが、「その」とは何を指していますか。次の（　　）に当てはまる言葉を書きなさい。

（　　）のいきさつ

SAMPLE

3 **次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。**

〈静岡改〉

*頼義の郎等に、*近江国の住人、日置の九郎といふものあり。馬、家来

*もののぐの出たち奇麗なり。頼義見て気色を損じ、いまいましき有様なり、汝、かならず身を亡ぼすべし、はやく売りはらふべし、それも味方の陣には売るべからず、敵方へ売るべし。九郎かしこまつて、後日のいくさに、また先におとらぬ奇麗をつくしたるもののぐを着たり。着替の料なりといふ。頼義、なほ身を失ふ相なり、売りはらふべし、①かまへて着すべからずと。次の日には、黒革縅の古き を着たり。頼義、②これこそめでたしめでたしと仰せあり。奇麗にたからをつひやせば、家まづしくなりて、よき郎等を扶持すべきちからなし、されば、敵にむかひて亡びやすしと、仰せありしなり。

よそおい　きらびやかだ　機嫌を悪くし　感心しない　命を落とすだろう　売り払ってしまいなさい　売ってはならない　売りなさい　恐縮して　以前　代品　やはり命を落とす格好である　絶対に　黒色のよろいで古いもの　喜ばしく結構である　お言葉　着飾ること　金銭　召し抱えることができる　それゆえ　相対して

（注）　頼義＝源頼義。平安時代の武将。
近江国＝昔の国名。今の滋賀県。
もののぐ＝よろいなどの武具。

〈志賀忍・原義胤「三省録」より〉

問1　仮名遣い　――線①「かまへて」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

（　　）

問2　会話文　この文章には、頼義の言った言葉が四か所ある。二つ目の会話文を抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。

□□□□□～□□□□□

問3　主語　～～線ア～エのうち、その主語に当たるものが他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

□

問4　内容理解　――線②「これこそめでたしめでたし」は、九郎のよそおいの変化に対する、頼義の感想である。頼義がこのような感想を述べたのは、九郎のよそおいが、どのようなものから、どのようなものに変化したからか。その変化を、現代語で簡潔に書きなさい。

（　　）

問5　内容理解　頼義が、九郎に対して、命を落とすことになるという内容の発言をしたのは、頼義にどのような考えがあったからか。頼義の考えを、現代語で書きなさい。

（　　）

SAMPLE

弊社サンプルをご覧いただき、
ありがとうございました。

紙面サンプルは
ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本※と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

会員登録はこちら

Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

- 文理の教材紹介
- デジタルサービスやテストのお申込み
- 教育情報の発信
- オンラインセミナーのお知らせ

■ Bunri Teachers' Siteへのご登録には弊社発行の招待コードが必要です。
■ 本サイトは一般の方のご利用をお断りしております。あらかじめご了承ください。

BUNRI